

2021 新理事長

―就任の抱負は。

「当金庫は来年100周年を迎えるが、『地元と共にあり、共に栄える』という経営理念は創業当初から変わっておらず、重みを感じる。愚直に進めていきたい。市原好二前理事長(現会長)が進めてきた『年輪経営』を引き継ぎ、現場主義を貫いてお客さまに一番近い金融機関であるよう努める」

―取引先企業の経営環境は。
「営業エリアは岐阜県の東濃・可児加茂・各務原地域と、愛知県北東部。業界や規模によっ

東濃信用金庫(多治見市) 加知 康之氏(59)



【略歴】中京大法学部卒。1984年入庫。常務理事管理統轄第1本部長を経て2021年6月から現職。趣味は鮎釣りとウォーキング。加茂郡川辺町在住。

“年輪経営”を引き継ぐ

て差が大きく、二極化している。コロナ禍といえど構造不況で停滞する取引先もあれば、自動車関連などV字回復し設備投資の意欲が高い取引先もあり、本質を捉えなければ見誤る」

「これまでやってきたことではあるが、ビジネスマッチングや人材紹介など、困り事や要望をしっかりと聞いて支える。コロナ禍で昨年は資金繰り支援に重点を置いてきたが、今後は取引先ごとにきめ細かな支援が求められる。われわれの強みは、

取引先のことを一番よく知っていること。職員のレベルアップに加え、専門知識のある人材や指導につなげていく」

―攻めの一方、守りも固めるというが。

「本部に機能を集約すべきことは、デジタル化改革を進め、その分の人材を顧客支援に回したい。職員が生き生きと笑顔で働ける職場であることが、お客さまの信頼につながる」

―地域ナンバーワン金融機関として、今後のエリア展開や合併再編への考えは。

「預金残高1兆円を超える規模、自己資本比率17%を超える体力もあり、単独で問題なく進めていける。現状のエリアに特化して展開していく考えで、合併や統合は考えていない」